

## 児童養護施設(ベトレヘム学園)の運営

### 【定員】

本園45名 地域小規模12名 令和4年4月～令和5年3月

### 【年間利用状況】(月初在籍人員)＜地域小規模＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
未就学	7	8	9	9	9	8	8	7	8	8	8	8	97
小学生	13 <3>	13 <3>	13 <3>	13 <3>	13 <3>	14 <3>	14 <3>	14 <3>	14 <3>	14 <3>	14 <3>	13 <3>	162 <36>
中学生	7 <3>	84 <36>											
高校生 その他	9 <5>	9 <5>	9 <5>	9 <5>	9 <5>	9 <5>	10 <5>	11 <5>	11 <5>	11 <5>	10 <5>	10 <5>	117 <60>
一時保護	1	1	2	2	2	2	1	0	0	0	0	0	11
合計	37 <11>	38 <11>	40 <11>	40 <11>	40 <11>	40 <11>	40 <11>	39 <11>	40 <11>	40 <11>	39 <11>	38 <11>	471 <132>

### 【施設運営状況】

#### ① 重点目標について

- ・職員のやりがいに関するアンケートの結果は、「感じている」が48.8%、「感じていない」が8.8%、「どちらともいえない」が42.2%であった。特に入所3年目未満の職員は毎日大変でやりがいを感じる余裕がなく「どちらともいえない」というような意見が多く見られた。
- ・施設の地域分散化を推進する目標に対しては、グループホームの開設を目指していたが物件探しに難航した事や家賃が折り合わなかった事で開設には至らなかった。国や東京都の方針に合わせて地域分散化を進める計画であったが、法人・施設としての方針を、再度検討し、計画を見直していく。
- ・高機能化、多機能化の推進に対しては、ナザレットの家の里親サロンに協力したり、清瀬社会福祉協議会や地域の支援団体「不登校・引きこもり支援」との連携を始めている。

#### ② 運営目標について

- ・法改正や情勢については、6月の職員会議で、パワーハラスメントに関する改正についてと自立生活支援事業について説明した。1月の職員会議で、権利擁護をテーマとして児童福祉法や児童憲章等について説明した。
- ・目標成果シートは、『階層別スキル』を基に各職員が目標を設定し、リーダーや副主任・主任等との育成面談を行いながら、それぞれの成長や強みを意識して勤務に当たった。
- ・児童の暴力が起きた時の、対応フローチャートを作成した。
- ・働き方委員会が休憩の取得強化の呼びかけを行い、ホーム間の格差はあるものの、意識向上に繋がった。
- ・他ホームを知る目的の1日体験学習は、リーダー2名実施することができた。計画ではあと1名実施予定であったが調整できなかつたので、次年度に持ち越しとする。
- ・ナザレットの家子育て支援準備委員会に参加し、清瀬社会福祉協議会の取組みを一緒に聞く機会を設けた。

### 【利用者支援状況】

#### ① 重点目標について

- ・「子どもにとって安全で安心な居心地の良い施設を目指す」という目標に対し、第三者評価の子どもの満足度を図る数値については以下となっており、いずれも目標の70%以上に達している(全年齢の平均値)。

- ここに来て良かったと思うか...＜良い+少し良い合計＞73.7%
- 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか...＜はい＞89.5%
- 気持ちを受け止め尊重されているか...＜はい＞76.3%
- こどもの不満や要望への対応がされているか...＜はい＞76.3%

しかし、職員に対して実施したアンケートでは「今年度の重点目標は達成されたか」の質問に対し、「はい」と答えた職員は42%であった。達成されていない理由として以下の意見が上がっている。

- 暴言暴力をする児童がいる以上、被害にあっている子どもにとっては安全で居心地の良い場所にはなっていない。

- 暴力に至りやすい児童がいるホームでは、他児が常に気を使っている状態である。この目標について継続した方が良いかという質問には、82%の職員が「はい」と答えているため、次年度も継続させ、暴力を減らすことを目指していく。

## ② 支援目標について

- ・自立支援計画書の作成や見直し時には専門職が必ず入り、話し合いをした内容を専門職がアセスメントシートに詳しく記録して残すようにした。
- ・入所 8名
- ・退所 <家庭復帰3名>  
<自立2名>  
<特別養子縁組1名>  
<里親委託1名>
- ・新たに習い事を始めた児童や、ボランティアにピアノを習い始めた児童もいた。自分の得意な事を褒められる場になっている。

## 【地域との連携】

- ・白梅自治会と共催の納涼祭は、規模を縮小して実施予定で準備していたが、直前で学園児童がコロナウイルスに感染し、中止となる。秋、自治会主催の芋ほりに参加している。
- ・清瀬市内の地域支援ネットワークの会議に参加しているが、大きな活動はなかった。その他「清瀬エンジン」という団体が主催した、落ち葉を集めて焼き芋をするという活動に、協賛の形で参加。職員1名が当日のスタッフとして、子どもたちが落ち葉集めと焼き芋に参加している。
- ・CAPプログラムを、令和3年度受けることができなかった職員が受講した

## 【職員の質の向上】

- ・育成面談として、リーダーや副主任、主任、副施設長、施設長との面談を適宜実施した。改まった場面で話を聴くことで、コミュニケーションを密にする機会となっているので継続していく。
- ・外部研修は、児童部会新任研修に6名(うち1名は途中退職)、同中堅研修に1名、リーダーシップセミナーに3名、処遇改善加算対象リーダー研修1名、給食現任研修1名、立川児相研修1名参加。法人研修には計9名が参加した。